

令和6年4月1日

増田義彦

## 令和6年度新入生 入学式祝辞

皆さんおはようございます。

トヨタ学園豊田工業大学、理事長の増田です。皆さんのご入学をお祝いして祝辞を述べさせていただきます。

学部へ入学、編入された皆さん、大学院の、博士課程、修士課程へ進学、入学された皆さん、おめでとうございます！また、この会場のみならず、サテライトにもご列席のご家族の皆様をはじめ関係の方々に、心よりお祝いを申し上げます。

本日の良き日を迎えることができたのは、ここに入学、進学した皆さんの力ですが、多くの方々の支えがあつてのことです。感謝の気持ちも大切にさせていただきたく思います。

本学の設立についてですが、日本で自動車事業を興した豊田喜一郎氏は、その事業が発展した折には大学を設立し産業を支える実践的技術者を育てたいとの強い想いを抱いていました。その創業者の想いを継いで、トヨタ自動車の設立40周年を記念する社会貢献事業として1977年に大学創設が決定されました。そして、1981年に本学が開学しています。したがって、今年で、本学は設立43周年となります。本日は、その創業者の名前を冠した豊田喜一郎記念ホールでの式典となっています。

また、今日、来ていただいているキャンパスは、2021年に、トヨタ自動車はじめ、多くの会社からのご寄付により完成したものです。この新装されたキャンパスは、より良い教育・研究ができるように各所に工夫を凝らして作られています。さらに、規模の小さい大学ではありますが、学生一人当たりの床面積で見ると、日本屈指の広さがあり、たいへん余裕のある空間が学生の皆さんに提供されています。

さて、本学に入学されることを選択された皆さんは、たいへん「幸運」であると思いません。

それは、一つ目には、本学が、質の高い教員、事務員、学生が揃った、博士号を授与できるレベルの教育と研究を行う大学でありながら、学生数が非常に少ないことです。二つ目には、小規模でありながら経営的に安定していて、教育や研究を継続的に十分なレベルで支援できる財務基盤と充実した施設を持っているということが挙げられます。

また、ここに揃った皆さんは、長い人生のよき友を得ることができます。本学では社会人学生の方々も共に学ぶのですが、小規模であるということは、仲間をよく知り、お互いに啓発しながら成長できる交友の場があるということでもあります。ぜひ、積極的に仲間づくりをして、よき生涯の友を得るようにしていただきたいと思います。

特に、みなさんの中には、始めて体験する寮生活に不安を感じている方もいるかと思いますが、しかし、そこでは、厳しい生活指導などは全くありません、この寮は個人のプライバシーとグループの共同活動ができるように工夫されています。はじめて経験する大学生活で、孤独におちいらないうで安心できる環境があります。また、寮で暮らすことによって、他では得られない人生体験を得て、自己成長している自分に気づくことができます。

なかには入寮を躊躇されている方もいるかと思いますが、卒業した本学の学生たちのほとんどが寮生活は良かったと言っています。このことから、私は、皆さんが入寮での1年間を過ごされること推奨します。学期が始まって様子を見てからでも、入寮することができますので、ぜひ考えてみてください。

ここで、「大学での学び」について、私の体験談を交えてすこしお話をします。

「大学での学び」は高校までの勉強とはかなり違います。

専門につながる基礎講義については、それぞれが難しく、多くの方が、まちががなく挫折を経験します。

また、教養科目については、工学部に入学したのに何でこんな講義を取らなきゃいけないのという気持ちになる人が多いと思います。

もう50年ぐらい前のことですが、私が大学生になった時、まったくこの通りでした。理解できない、面白くないということで、沢山の単位を落としました。そのため留年を覚悟していましたが、当時たまたま運よく単位制度が変わって3年生に進級できた時は、ほんとにびっくりでした。

工学基礎では、たぶん線形代数が大きな壁になる人が多いと思います。私は結局、単位が取れませんでした。今思うと、それは、「大学での学び」について無知だったからだと思っています。高校時代の数学のように数式が解けることへの意識が強く、線形代数が数理によって描き出し、広げていく世界の面白さ、つまり「概念が作り出す世界」を理解しようとする姿勢が当時は無かったからだと思っています。

他の科目にも言えますが、「概念が作り出す世界の面白さを、なんとか理解しよう」という勉強がみなさんにとって「大学での学び」のスタートになると思います。線形代数は現代工学の世界を理解するための基本なので、この「概念」が多少なりともわかるように勉強して、私の二の舞にならないで欲しいと思います。

次に、教養科目については、簡単にいえば、何かのために学ぶものではありません。文化のこと、社会のこと、自然のこと、人間そのもののこと、などについて自分の中に、興味を芽生えさせ、知りたいことを「無目的に学ぶ」時間だと思ってください。実は、この学びが将来の皆さんにとって一番の力になります。これは、私自身が社会人になったからの経験から言えることです。

学部新入生のみなさんには、高校までの勉強とは違う、「大学での学び」に早く気づいてくれることを期待しています。

大学院の修士課程に入学、博士課程に進学されるみなさんに向けては、つぎのことを意識していただきたく思います。これは、毎年、述べていることです。

私が長く開発技術者として働いてきた経験から、「他人が考え生み出したことと、自分が考え生み出したことをきちんと区別できる力」が大変重要だと思っています。それは、「オリジナリティへの敬意」という心構えとも言えます。これは、開発技術者や研究者の心の根底に近いところであって、みなさんが健全に成長するための肝となるドライビングフォースです。また、この心構えは、「自分が自分であることを相手に伝えるように表現できる力」を身に着ける基礎になります。

これからの研究活動は、このような「オリジナリティへの敬意」という心構えが、自分のものとなる最適な学びの場だと思っています。ぜひ、多くのチャレンジをしてください。

本日は博士課程に進学される方も参加しています。

いろいろな要素が高度化し絡み合っ先が読みにくい時代になっています。このような時代に、「時流に先んずることのできる」資質は、博士研究による鍛錬によってさらに大きく伸ばすことができると考えています。このような成長の場を提供するため、優れた博士研究を指導する教員団や研究環境に加えて、皆さんが学位取得するまでの生活資金の支給までを含めたフルサポートでの奨学制度を本学では準備しています。また、工学博士号を授与された方々が就職に困っていることはありません。充実した博士課程があることは、本学の大きな魅力ですので、ぜひ本学の博士課程をさらに輝かせる一員として活躍していただきたく思います。

最後になりますが、  
健康を第一に、誤りや失敗を恐れず、仲間や教員と語り、これからの学生生活を、自分なりに思いっきり過ごしてください。

これをもちまして、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。本日はおめでとうございます。